

数学基礎論サマースクール

選択公理と連続体仮説

ツェルメロの選択公理およびカントールの連続体仮説の公理的集合論からの独立性が、ゲーデルの内部モデル理論とコーエンの強制法によって確立されて以来、すでに五十数年が経過しました。選択公理は今日においても数学者が集合論に関心を引かれるきっかけとなる最大のテーマであり、また、連続体仮説の周辺の問題は現在も集合論の中心問題のひとつです。今回のサマースクールでは、これら古典的問題の現代的な取り扱い、および関連する最近の話題を紹介します。

2019年9月3日(火)から6日(金)

静岡大学静岡キャンパス 共通教育B棟

菊池誠 (神戸大学)	集合論のための数理論理学
藤田博司 (愛媛大学)	ツェルメロの選択公理
池上大祐 (芝浦工業大学)	カントールの連続体仮説
酒井拓史 (神戸大学)	ゲーデルの構成可能集合
依岡輝幸 (静岡大学)	コーエンの強制法

<https://www.sci.shizuoka.ac.jp/~math/yorioka/ss2019/>

